



世界のこどもたち  
～もしもみんなが同じクラスにいたら～

講演：柴田 眞子氏  
レポーター：赤堀 薫里

プロフィール

柴田 眞子(しばたまこ)氏

吉祥女子高等学校 1 年生

2004 年 10 月 4 日(投資の日)生まれ

1.5 歳から 3.5 歳まで、母の仕事の関係で米ミシガン州アナーバーで過ごす。

帰国後ピアノを始め、厳しい指導のもと数々のコンクールで活躍。小 2 でピティナ全国大会銅賞受賞。中学入試後は、弓道部、書道、茶道の 3 つの「道」を極めつつある。中 3 では、東京都弓道大会第 3 位。書道 7 段。

今日は、世界の様々な環境に住む 4 人(ここではそのうちの 2 人)の子どもたちを紹介します。

カンボジアのレアちゃん



1 人目は、カンボジアに住む 9 才の女の子レアちゃんです。この子はお母さんと 2 人で暮らしています。生活のために、毎日街に出てしじみを売って働いています。日本のしじみと違い、カンボジアではおやつや軽食として食べられているストリートフード。事情があつて働くことができないお母さんに代わって、3 才の時から働き始めたので、学校には 1 度も行ったことがありません。

レアちゃんは、車やバイクも多い、すごく危険な環境で働いています。そして、このしじみの売上が十分ないとお腹いっぱいご飯を食べることができず、空腹のまま寝ることもあるそうです。お母さんの話では、学校に行きたいと泣くこともあるそうです。ただ、生活のために稼いでもらわないといけないので、どうしても学校へ行かすことができないそうです。





## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

レアちゃんに「困っていることは？」と聞いたところ、「特にはないです。でもお腹いっぱいご飯が食べてみたい」と答えてくれました。私は困っていることがたくさんあると思っていましたが、逆に働いているだけなので、実際に困っていることや、やりたい事もあまり出てこなかったようです。

将来の夢を聞いたところ、「病気の人たちを無料で診てあげられるようなお医者さんになることです」としっかりとした夢を持っていました。これは、幼いレアちゃんが大きな病気をした時に、無料でお医者さんが治してくれたことがきっかけで、お医者さんになりたいと思っているそうです。

### インドネシアのケイシャちゃん

2人目はインドネシアのムアラ・アンケに住む8才のケイシャちゃんです。なんと10人家族で暮らしています。両親は小さな商店と、よく取れる貝を売って生活しています。二週間おきくらいに、満ち潮の時に海水が川に流れ込み、家に膝ぐらいの高さまで浸水してしまうので、家の井戸が沈み、きれいな水が得られません。そのため、お風呂の水や飲む水を買に行くことが、お手伝いの一つです。

この地域は、毎年20cmずつ地盤が低下して地面が沈んでいます。それに加えて海面の上昇がおこる。これは地球温暖化の影響です。地盤低下と海面の上昇が組み合わさり、海の水が川を流れてしまうことで、住居が浸水してしまう状況が続きます。浸水した状況が二週間続くこともあるそうです。一度浸水するとなかなかもとに戻らない。道路に落ちているゴミが、バイ菌と一緒に運んできて感染症になりやすくなり、問題になっています。

普段、ケイシャちゃんが住んでいる地面は海面より低い状態です。このままいくとこの地域は2025年までに沈んでしまいます。ケイシャちゃんに「家まで水が入ってくることについてどう思いますか？」と聞いたところ、「悲しい。汚い水が入ってくることは嫌だ」。将来の夢はありますか？と質問したところ、「お医者さんになって、お母さんが病気になったら、治してあげたいです」と言っていました。

いろいろな環境に住む人たちを知った時、「助けてあげられるほどのお金を持っていない。どうしたらいいだろう」といつも思っていました。子どもにもできること、子どもだからこそできることはなんだろう、と考えました。それは、支援をしてあげるということではなくて、一緒に向き合うという姿勢だと思います。

### 私(真子ちゃん)の思うこと



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

みんなどこに住んでいても、遊ぶことが好きで、それぞれ趣味や得意なことがあって、夢もしっかり持っています。ただ住んでいる環境が違うだけで、みんな同じ子どもです。**かわいそうではなくて、困っている友達の相談に乗ってあげるような気持ちで聞いてほしい。**これから、「世界ではこういう人が何万人もいて、助けるためにはこれくらいのお金が必要です」ということを見たり聞いたりすると思います。でも、お金はいりません。友達の困っている事を聞いて、一緒にどうしたらいいのか考える。同情ではなくて相談に乗ってあげるような気持ちで、親身になって考えるということ。

もっと知っていくうちに自然と「なんでこんなことがおこっているのか、どうしたら解決できるのか、自分にも関係があるのかもしれない」というように、知りたいことがどんどん増えていくと思います。今、知ることができる場所はたくさんあります。今日、私が参考にしたユニセフやワイルドビジョンという子どもの支援をしている団体や、UNHCR や JICA、FAO(国連食糧農業機関)の HP や YOUTUBE の動画でいろいろなことを知れます。「WE FREE THE CHILDREN」は、自分たち子どもたちが声をあげる活動をしていこうという団体です。子どもしか会員になれない。小学生でも中学生でもどんどん入って活動することができます

実際に私が先月 6 月 12 日に児童労働に反対することを、段ボールに文字を書いて掲げて、大人や世界に訴えかけました。ここに子どもでもこんなことを考えている人がいますと主張できるし、そういう人が多くなれば世界は変わっていきます。このように一つ一つ解決策を考えていくというのが、本当にやるべきことではないかと思います。

講演では、紛争のためヨルダンの難民キャンプに住んでいるシリア出身のハムザ君 11 才と南スーダンで紛争に参加させられていた元子ども兵のサイモン君の紹介を、ビデオを織り交ぜ、想像しやすいように紹介してくれました。

最後に、シリアの難民の子どもたちが歌う、心に染み入る歌を聞かせてくれました。

(文責 FIWA)